矜持と情熱。
それらを注ぎ込んだ家創り

株式会社 井上建築工業
代表取締役　一級建築士
井上　修一

一世一代の大事業を託される者としての誇りを胸に

とにかく熱い人である。「家創りは、施主様の一世一代の大事業。それを託される者の責任と誇り、そして喜び。私はそれらを常に胸に刻み続け、渾身の力を込めて唯一無二の家を創ります」と語る株式会社井上建築工業代表取締役の井上修一氏。57年前、創業者である父が掲げた「家創りは幸せの器創り」「木と紙と土で創るのが本物の家」の信条のもと、それを継承する二代目として妥協のない姿勢を以て住まい創りを手がけてきた。

同社は自然素材にこだわった専門工務店。良質な素材に恵まれた栃木の地に生まれ育ち、その恵みを享受しながら懇切丁寧な家創りをし続ける井上氏は、徹底した地産地消にもこだわりを見せる。「栃木は、素晴らしい素材が豊富な地。その恵みに感謝し、この土地ならではの材料を駆使することこそが、栃木で仕事をさせていただく者の使命にも感じられるのです」。その言葉通り、木材はもちろん、土、石にいたるまでその多くは地元産。また、それらを最大限に活かす新しいデザイン、工法の研究にも余念がない。しかしながら、その根底に息づくのはあくまで“大工・左官・建具”における伝統木造技術。“匠の技”に心血を注ぐのも、井上氏が頑なに守り通していることである。そして、それを体現するための流儀にもまた、揺るぎないものがある。「家を建てたいといって来てくださった方に対し、私は必ず“当社の家創りはお客様にとって、最良のものかどうかわかりません。私たちの仕事を直接その目でご覧いただき、実際に触れていただいてから、お客様ご自身で判断してください”と申し上げます。一見、傲岸不遜に感じるかもしれませんが、私たちが守り続けている姿勢、その仕事、そして想いを理解し、共有していただいてこそ、施主様にとっても私たちにとってもベストのものを完成させることができると自負しています」。

家創りにおいては、施主と創り手との“相性”も大切な要素である、と井上氏。なぜ、家を建てるのか、そしてこれから建てる家の絶対的な核になるものとは何なのかを施主に問い、それにもっともふさわしい最良の提案をしつつ、互いの想いが昇華したものを形創ること。それが、井上氏の家創りの基本であり、永劫変わらぬスタンスなのである。

最も大切なのは施主の幸せ。地元がもたらす自然素材への絶えないリスペクト。そして、栃木で家創りをすることの意義。井上氏のプライドと地元への愛情が施主が描く住まいを形にし、その夢を叶える。